

# すわっチャオ!!

## スタジオ使用マニュアル

### 目次

- ・ギター・アンプ MARSHALL JVM210H
  - ・ベース・アンプ Ampeg SVT-3 PRO
  - ・ミキサー、アンプ（マイク、キーボード入出力）
  - ・スピーカーを壊さないために
  - ・シンバルを割らない！
  - ・ケーブルは8の字巻きにしよう
  - ・ケーブル抜き差し時の注意
- 
- ・スタジオレイアウト



# ギター・アンプ MARSHALL JVM210H

真空管プリアンプと真空管パワーアンプ

5分以上、真空管を暖めないで、適切に作動しません。

(低音・高音が十分に出ない)



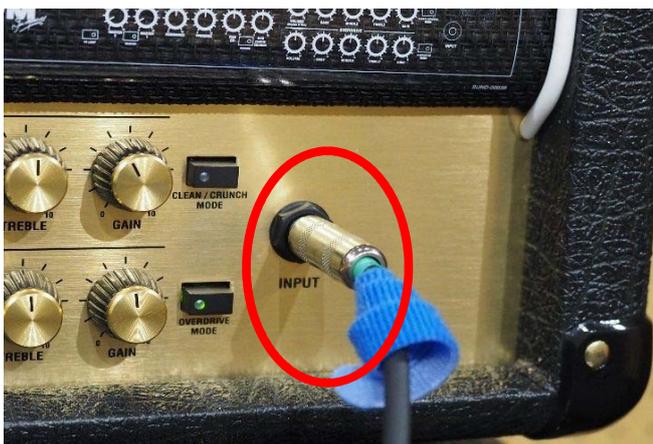
## ①STANDBY "ON" / MASTER1 & 2 "0"



## ②電源ON (赤ランプ)



## ③シールド・ケーブルを接続



#### ④STANDBY "OFF"

---



スイッチが2つとも下に下がっていると  
POWER"ON" / STANDBY"OFF" 状態で  
音が出ます

#### ⑤音色を選ぶ

---

CLEAN/CRUNCH チャンネルに3音色

OVERDRIVE チャンネルに3音色

あわせて6音色の中から選ぶ



MODE ボタンを押すごとにLEDが"緑/オレンジ/赤に変わり  
設定された音色になる

## ⑥音量を決める

MASTERボリューム1 or 2 を上げて  
音量を決める。(ドラムに合わせる)



選んだ音色ごとにMASTER 1or 2 が設定されている。  
MASTERボタンのLEDが無点灯ならば1 が有効2は無効。  
MASTERボタンのLEDが赤色点灯ならば2が有効1は無効。

## ⑦電源OFF

STANDBY "ON" / MASTER 1 & 2 "0" を確認してから



休憩時など

電源OFFにすると真空管が冷えてしまいます。  
休憩時などは電源ON/STANDBY"ON" 状態にしましょう！



# ベース・アンプ Ampeg SVT-3 PRO

真空管プリアンプとトランジスタ・パワーアンプ  
5分以上、真空管を暖めないで、適切に作動しません。  
(低音・高音が十分にでない)



## ①MUTEが"ON"、MASTERが"0"



スイッチが押し込まれた状態

## ②電源ON (LED緑)



電源ケーブルの緩みに注意！

### ③シールド・ケーブルを接続



### ④GAIN調整

MUTE"OFF"してから、たまにPEAKが点滅するぐらいに  
Input Gain を上げる



### ⑤イコライザー調整

イコライザーとグラフィックEQはフラットな  
状態からはじめましょう



## ⑥音量を決める

MASTERボリュームで音量を決めます  
(ドラムの音量に合わせる)



## ⑦TUBE GAIN について



真空管の作動電圧を調整するツマミです。  
上げると真空管独特の倍音や飽和感（コンプ）が得られます。  
最大にすると若干歪みます。  
9～12時ぐらいで使用がお勧めです。

## ⑧電源OFF

MUTE "ON" (LED赤) / MASTER"0" を確認してから



電源OFFにすると真空管が冷えてしまいます。  
休憩時などは電源ON/MUTE"ON" 状態にしましょう！

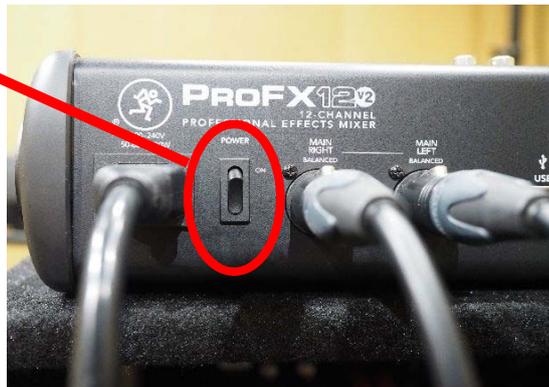
## ミキサー、アンプ (マイク、キーボード入出力)

スピーカーから音が出ない状態を確認してから。  
アンプ電源がOFFまたはボリュームが0



### ①電源ON

電源ONはミキサーが先



電源ONはアンプが後



### ②マイクにケーブルを接続

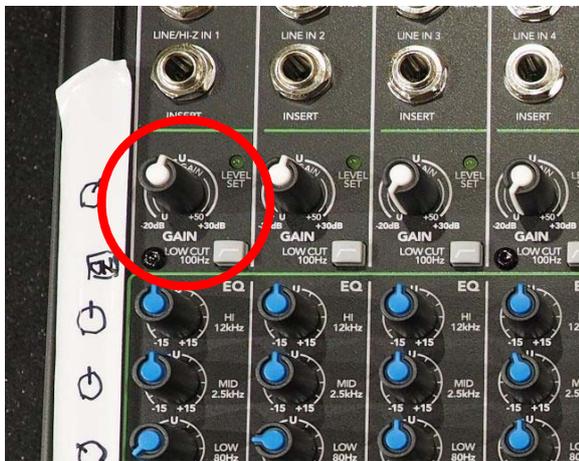


### ③マイクをミキサーに接続



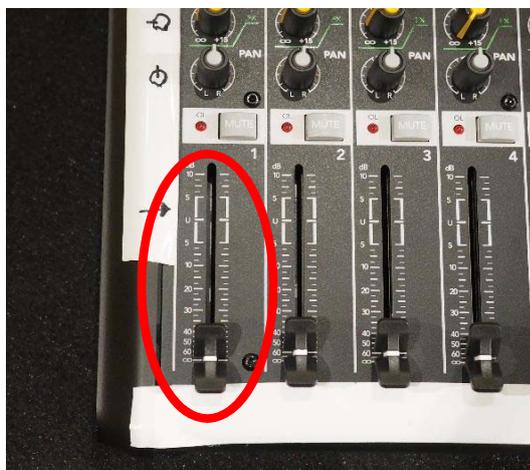
### ④GAIN調整

マイクの入カレベルを調整します。



### ⑤マイクボリューム調整

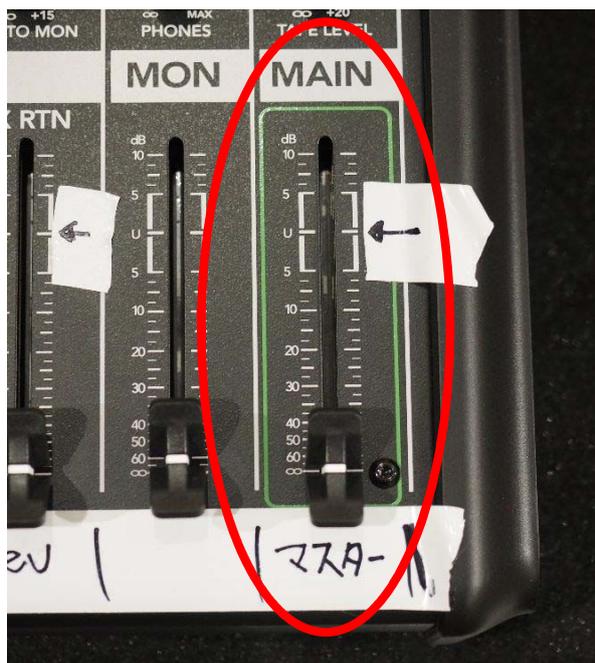
マイクの出カレベルを調整します。



一時的に音を消したい場合は  
MUTEを押します。

## ⑦ マスターボリューム調整

全体の出力レベルを調整します。



## ⑧ 電源OFF

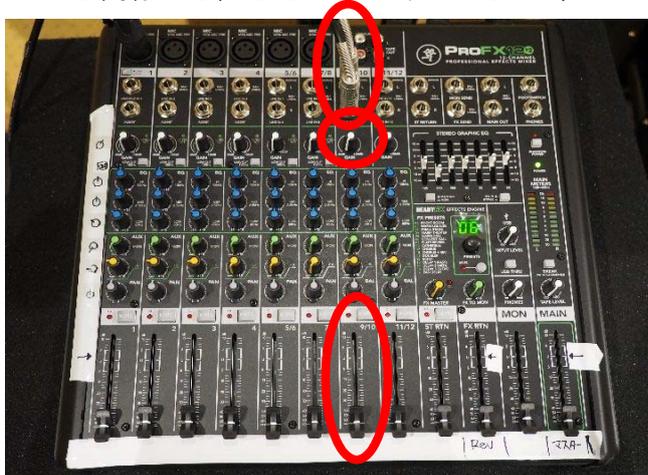
GAINを一番左に回す、マイクボリューム、マスターボリュームを一番下に下げる  
電源OFFはアンプが先、ミキサーが後

## キーボードの出力調整

キーボードは9 / 10チャンネルに接続済

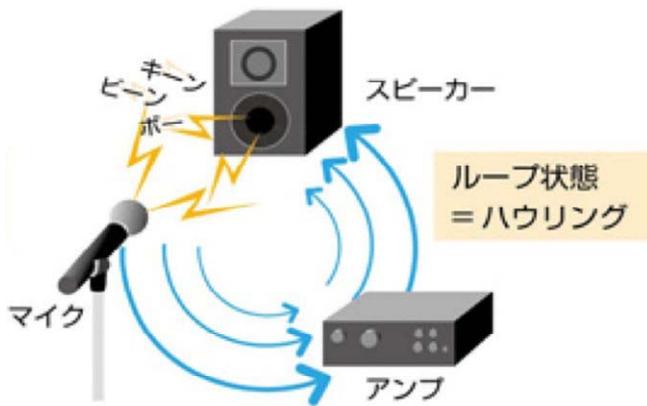
## キーボードのGAIN、ボリューム調整

マイクと同様に9 / 10チャンネルのGAIN、キーボードボリュームで調整します。



## スピーカーを壊さないために

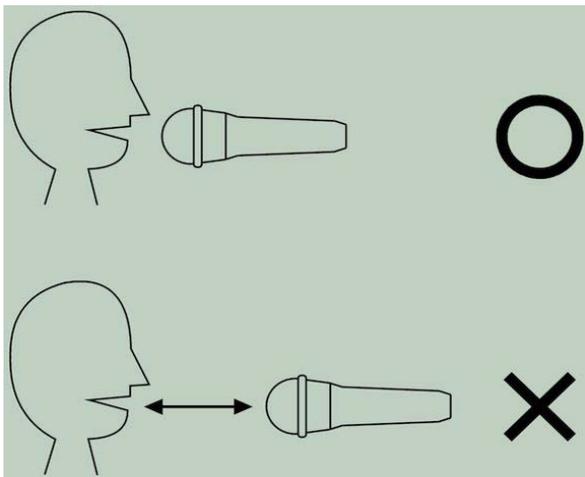
### ①出せる音量には限界がある！



#### ハウリングの仕組み

1. マイクの拾った音がアンプに送られて増幅。
2. アンプで増幅された音がスピーカーから出力
3. スピーカーから出された音をさらにマイクが拾う
4. ループ状態になり、機器内で発信する。

### ②マイクの特徴を知っておこう



#### マイクの正しい使い方

1. 出来るだけマイクを口に近づける。
2. マイクをスピーカーに向けない。
3. グリル（ウィンド・スクリーン）に手を被せない。
4. 床に置かない。
5. ケーブルの抜き差しは、



シンバルを割らない！

シンバルが割れる原因は？

---

- 1 エッジを叩く！
- 2 ナットの締め過ぎ！
- 3 カみ過ぎ！



力じゃなく、スティックのスピードで叩くようにしよう！

## ケーブルは8の字巻きにしよう



①左手でケーブル端を持つ



②右手でケーブルを巻く（順巻き）



③右手でケーブルを逆方向に  
ねじって巻く



④順巻きと逆巻きを  
交互に繰り返して完成。

# ケーブル抜き差し時の注意

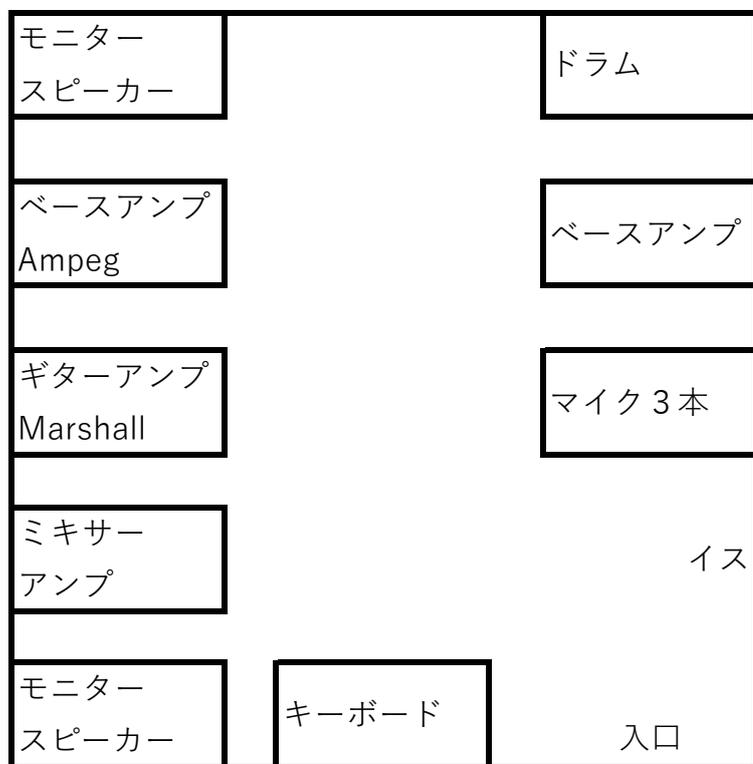
アンプOFF (MUTE)またはボリュームを下げてから

ケーブルを持たないでコネクターを持つ



# スタジオレイアウト

## ①スタジオ 1

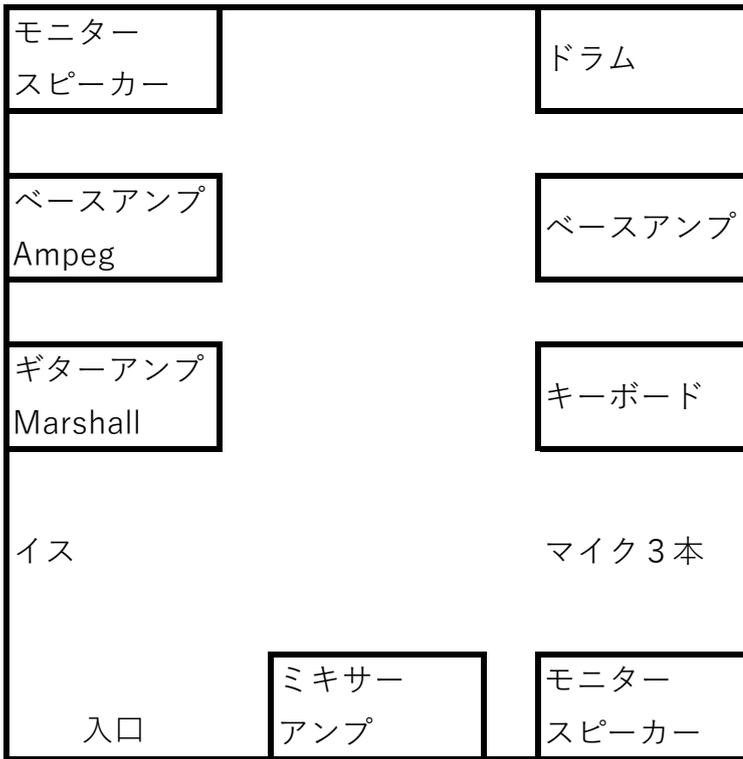


②スタジオ 2

ドラム		モニター スピーカー
ベースアンプ Ampeg		ベースアンプ
ギターアンプ Marshall		キーボード
		ミキサー アンプ
入口	マイク 3 本 イス	モニター スピーカー



### ③スタジオ 3



#### ④多目的スタジオ

